

九点

④ 蛍飛ぶこころの闇の処方箋

増田 守

「蛍」に単なる「闇」の配合では、駄目句の典型である。長期入院を経て、難病指定の脊髄小脳変性症を宣告された。神経刺激の伝達系の問題らしいが、特効薬はない。幸いにも、知能活動には全く影響がないので、好きな俳句は続けている。リハビリ中であるが、処方箋の薬剤名欄には未だに変化がない。まさに「暗夜行路」であるが、蛍の闇を思うと、精神世界まで浸食されたくはないと思う。

③ 井戸水に地球漬けたき暑さかな

古野 明美

耐え難く、忍び難い猛暑である。夜の帳が降りても、然程、気温は下がらない。人間の体温と同程度、もしくは、それを超える気温は、辛い一言である。最早、適応も進化も追いつかない暑さである。井戸水に地球を漬ける事は不可能であり、不条理な一句ですが、この夏の連日の暑さに、地球を冷たい井戸水に丸ごと漬けることが出来るならば、ぜひ漬けたいものだと、切に思いました。

七点

① 風死すや言葉少なき避難民

藤本 友子

日本中が猛暑で喘いでいる折、西日本豪雨が発生し、各地の避難所の様子が報道されました。家と家財道具一切を失った避難民の方々が絶望感に虚ろな表情でインタビューを受けている姿が忘れられません。猛暑や豪雨、発生数の多い台風など、異常気象が相次いでいます。この原因となる地球の温暖化を防ぐべく、私も日々小さくとも努力を積み重ねようと思います。「風死す」で過酷な避難所の様子を表しました。

六点

② 風死して百戸の出せる排気熱

柏尾のり子

今夏は、クーラー嫌いの私でも、一日中つけずにはられない酷暑の日々です。マンションの百戸が、全員クーラーをつけることで、本来の暑さより更に更に何度か辺りの温度を上げているのだらうかと、恐ろしく思いつつ、つけています。「命を守る行動」と言いながら、人間は自分で自分の首をしめているのかもしれない。

① 補欠子へ草笛の空あけてをく

恩田 才美

子供の懸命な姿に出会うとつい涙もろくなる。散歩の途中グラウンド。ベンチで声を張り上げて応援のみの参加の少年。「私は君を応援しているよ」

① 涼しさや風が風追う大草原

稲葉 幸

利尻、礼文の旅。礼文の丘は、一面の草原で四囲が海のため、風が強かった所でした。風が風を起こすという、そんな感じがありました。一陣、二陣と間断無く吹いていました。マイナーな島でしたが、利尻富士の姿の富士山

と違い美しかったです。

五点

②解体の重機の爪や夏の雷

荒木ツル子

解体の現場に遭遇した時、過去が蘇って来て、以前に実家が解体されて行く様子が脳裏に浮かんできました。毎年お正月に背くらべをした柱や落書きをして叱られた時の壁などが重機の爪でおかまい無く雷の様な音と共に壊され消え去って行ってしまった事などを思いつつ急ぎ足で通り行きました。

①老鶯や地藏菩薩の耳豊か

稲葉 幸

兄が二十七歳で交通事故で亡くなり、当時、母は現場にお地藏様を建てたいと言いましたが、神奈川区でしたので、遠いとのことと境内に建立しました。いろいろと近況など、お詣りしながら話を聞いてもらっています。一人の兄で、丁度、本堂の地鎮祭の二日後でした。父も兄も亡くなり、弟は中学生、母とどうしようかと考えました。(何だか愚痴めいて嫌なのだが、私の歩いた道です)

四点

②風鈴の音が弔ふ被災の地

古野 明美

先般の広島や岡山などに、甚大な被害をもたらした集中豪雨は、大勢の住民の命を奪った。大切なご家族を亡くされたご遺族の方々の深い悲しみには、言葉がありません。線状降水帯による大雨が降る以前には、家々の軒先には、風鈴が吊るされて、平和な音色を奏でていたのではないだろうかと思えます。豪雨により、家屋は泥に埋まり、風鈴も泥に埋まって、最早、風鈴が鳴ることがありません。それでも、例えば、不条理でありましても、泥に埋まった筈の風鈴の音が、被災地のどこからか聞こえて来て、お亡くなりになった方々の鎮魂のために、音色を立てているのではないだろうかと思えてならないのです。

①夏木立一気に空の入れ替る

恩田 才美

待ち合わせは円覚寺山門付近、午前十時、いつもながらの片待ち。課外授業の生徒集団のさざめきを離れ、そぞろ歩きでも。円覚寺界限は樹木の種類が多く、今は青の濃密な世界。盛夏に入る前の木立の力が空の佇まいをも入れ替えてしまう勢いに圧倒された朝であった。

涼しさやいつもの位置に母の筆

恩田 才美

明治女性の慎しみの中での整った立ち居振舞が自然に「涼し」という季語に行きつきました。後年、毛筆を唯一の趣味としていた母の自分だけの時間。